

ツエルト II (2~3人用) (NEW) 使用レポート

祖母傾山縦走



登山教室【モルゲン】

<http://shizennonakade.com/gaido/>

日本山岳ガイド協会
認定登山ガイド 末永 直樹

使用条件

山 域：祖母傾山系

ルート：祖母傾山系縦走

山 名：祖母山・障子岳・古祖母山・傾山・大障子 他

時 期：平成21年12月30日～平成22年1月3日 車内前泊ツエルト3泊

～正直、結露の少なさにはビックリしたというか感激だった。～

2010年正月、大分・熊本・宮崎の3県にまたがる九州でも屈指の山岳地帯である祖母傾山系の縦走を行った。

ツエルトの結露の悲惨さを実感している立場の人間として、評判のファイントラックのツエルトを実際に使って、その結露を確認してみたいと感じ、今回は、山中3泊をツエルトで行った。

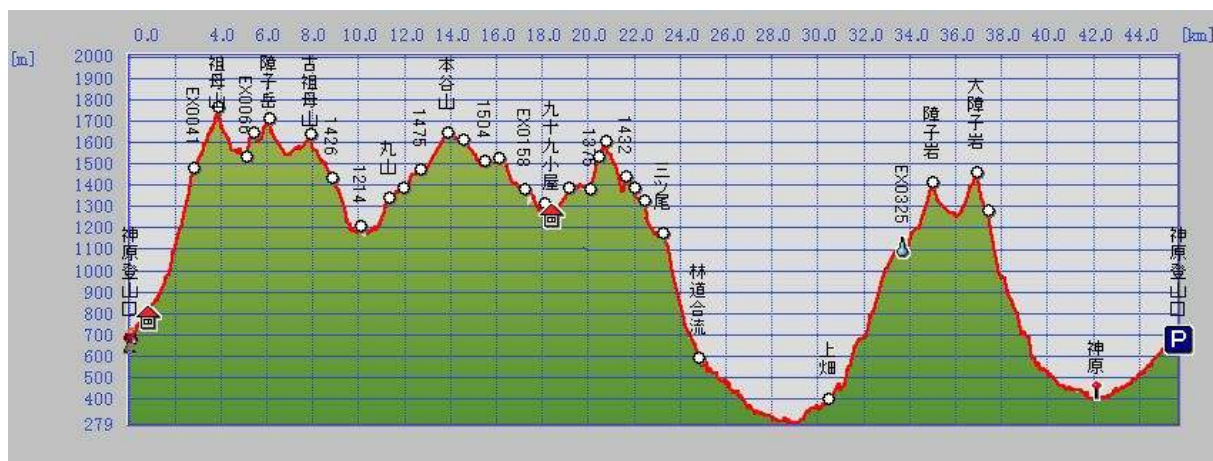
祖母山と傾山は、馬蹄形の山稜となっており、山頂間の距離は18kmにおよぶ。

九州では、祖母傾山系の縦走を行うと『いっばしの岳人』と呼ばれるほど、スズタケの登山道を掻き分けながら進む長丁場の厳しい縦走路であった。

しかし、現在では、自衛隊と地元の山岳会の方々の整備のおかげで、以前からするとかなり快適に縦走することができるようになった。

ちなみに、周回の縦走を行うと九州百名山を一気に5座登ることができる。

一般的な縦走は、上畑から周回。もしくは、九十九登山口と尾平間での記録が多いが、今回5回目となる縦走を神原から行った。そのため、下山してからの車道歩きも含め47km余りの長丁場となった。



縦走初日は、この冬一番の寒波であった。

31日は、西日本全域が850hpa (標高1500m) 氷点下6℃以下となった。

厳冬期の縦走は、入山者も少なく、九州特有の濡れる雪を、積雪次第では、ラッセルと雪の重みで倒れたスズタケを掻き分けて進むことになり、かなり苦勞することを覚悟しての縦走であった。

12月31日

神原登山口 670m 11:00 合目小屋 790m ⇒ 国観峠 1486m (熊本・大分・宮崎の三県境) ⇒ 祖母山 1756.4m ⇒ 黒金尾根の分岐 1530m 16:00 ツェルト泊

31日早朝、神原登山口到着、車内で仮眠。

5時間程度の仮眠で出発。

はじめての登山道を歩き五合目小屋到着。

小屋は、屋根と壁の間に隙間があるせいか、乾燥してきれいに清掃してあり、とても気持ちが良い。これまで見てきた避難小屋の中でも最も程度が良かった。



五合目小屋 790m



国観峠 1486m (熊本・大分・宮崎の三県境)



黒金尾根の分岐 1530m

祖母山頂通過時は、寒波の最中でとても寒く、写真を撮ることもなく先を急ぐ、山頂部から障子岳方面への縦走路は、急な岩場の下りとなっている。

日本アルプスなどの雪と異なり、九州の雪はかなり湿雪だが、冷え込みのおかげで、濡れを意識せずにすんだ。

平成21年12月31日には、標高1500m上空の雪の目安となる氷点下6℃の寒気が九州南部にまで南下していた。



祖母傾縦走路と黒金尾根の分岐点 標高1530m

小屋内部氷点下15℃ ツェルト内部温度氷点下10℃

※ツェルトの内部の生地が少し白っぽく見えますが、生地の特徴で結露ではありません。この日は、結露なしといっても過言ではないという状態でした。



1月1日

黒金尾根の分岐 1530m 7:40 ⇒ 障子岳 1703m ⇒ 古祖母山 1633m ⇒
本谷山 1642m ⇒ 笠松山 1522m
⇒ 九十九小屋 1265m 14:30 避難小屋内ツエルト泊

1日は、寒波も緩み高気圧も広がり、昨日とはうって変わり穏やかな1日となった。

14時過ぎに九十九小屋到着、先へ進むか悩むが、小屋には誰もおらず快適に眠れそうなので、避難小屋内にツエルトを張ることにした。

九十九越避難小屋内部 標高 1265m
小屋内部氷点下 7℃
ツエルト内部温度氷点下 2℃



ぶな広場（幕営適地）



九十九越避難小屋



小屋からの傾山

経験上、風の影響を受けない状態で、ツエルト内部は外気より約5℃程度、テントで約10℃程度、室温が上昇するようだ。

当然だが、テントもツエルトも極力風を避けて設営しなければならない。

1月2日

九十九小屋 1265m ⇒ 傾山 1602m ⇒ 三つ坊主尾根経由 ⇒ 林道 ⇒ 上畑
⇒ 健男神社 ⇒ 上畑集落上部 標高 500m ツエルト泊



1月2日も昨日同様に穏やかな天候だった。

同じ山域の山でも、祖母山と傾山は全く別世界であった。祖母山は寒波の最中の通過で、厳しい寒さであったが、傾山は祖母山より標高が低いせいか、ほとんど雪もなかった。

標識も傾いていた！

ツエルト II (2~3人用)の使用感、およびツエルトを使いこなすために大切なこと



上畑集落上部 標高 500m
外気温 10℃ ツエルト内部 5℃

正直、結露の少なさにはビックリしたというか感激だった。

今回の使用条件では、結露は全くなかったといっても過言ではないだろう。

むしろ通常使用しているダブルウォールのテントよりも結露が少ないように感じた。

実際にツエルト泊の経験がある方、今後積極的にツエルト泊を行う方は、新たに購入する価値も十分にあると思う。

ツエルトは、テントのようにはじめての方でもすぐに張れるというものではない。

まず、「細引きで加工」しなければならない。

その上で、実際にフィールドで張る練習を行う必要がある。

一般的な登山者の場合、長い経験の中であっても、非常時のビバーク（フォースト・ビバーク）など、行うことはほとんどない。普段ロープや細引きなどを携行しない登山者がツエルトを購入した場合は、「細引きで加工」していなければ、ツエルトをかぶるだけになってしまう。

ツエルトをレイヤリングと考えると分かりやすいと思う。

ただ単に体に巻きつけるよりは、外気を遮断して、「対流しない空気の間」を作ることが大切だ。そのためには、ある程度の技術の習得が必要となってくる。

ツエルトの張り方のコツは、まず底の部分を全体のバランスを取り固定した後、適正な高さを決めることだ。自分が使用しているツエルトの高さをあらかじめ確認しておき、ストックなどに目印をつけておくとか、自分の身体で位置を決めておくなどの工夫をすればやく美しく張ることができる。もちろん、美しく張るためには、多少のロープワーク技術も必要だ。

ツエルトを購入しても

袋からも出さずに（「細引きで加工」もせずに） ⇒ とりあえず毎回の山行に持参 ⇒ 使うことなどない ⇒ な～んだ！ツエルトいらんないじゃないか ⇒ 持っていかなくてもいいや ⇒ 非常時 ⇒ ツエルトは持っているけど、携行していなかった。もしくは、携行していたけど、うまく張れず、最悪の夜をすごした。

ということにならないように、購入したらまず袋から出してツエルトを張ってみることが大切だ。

購入し、所有したことに満足するのではなく、いつでも携行し、活用できることを目指そう。そのためには、ファイントラックのツエルトは最適な装備だ。